

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2013年11月7日

[テーマ] 隣県との連携で需要開拓を

県内では、スポーツの秋らしく、運動会や様々な競技大会が開催されている。3日に開催された県民マラソンには、県外ランナーも参加していた。

近隣の県でもスポーツ行事が目白押しだ。埼玉県では、ツール・ド・フランスを冠した自転車レース「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」が開催され、世界トップレーサーの力走を観戦するため約20万人の観客が来場したそう。この件で、埼玉県が全国トップの自転車普及率を誇り、その一方で、自動車保有率は高くないことを初めて知った。同じ北関東でも、乗り物の点では当県と正反対の地域特性だ。

#### ◆ 自動車・自転車の普及状況

	自動車保有率 (2012年3月末、 1世帯当たり)	自転車普及率 (08年、1人当たり)
群馬県	1.67 (3位)	0.44 (27位)
埼玉県	1.02 (40位)	0.77 (1位)
栃木県	1.64 (6位)	0.46 (23位)

カッコ内は全国順位

日本自動車工業会調査、自転車協会「自転車産業基礎資料」(2010年1月)、総務省「平成20年 住民基本台帳人口」を基に作成

当県は、近隣5県と接するが、歴史的には栃木・埼玉両県とのつながりが深い。栃木県とまたがる両毛地域には、江戸時代に栄えた日光例幣使街道の足跡が残っており、宿場で流行った歌が八木節の起源とされる。わたらせ渓谷鉄道は、かつて栃木県から群馬県を通じて鉱石輸送を行った路線だ。明治初期に、当県と埼玉県西部にあった入間県とは、合併して熊谷県になったことがある。今日でも、県内の人々が鉄道や乗用車などを使って移動する県外地域は、栃木・埼玉両県が圧倒的に多い。

◆ 2010年度の都道府県間の人の移動状況

目的地 出発地	群馬県	埼玉県	栃木県
群馬県	—	2411.8 (1)	1827.9 (2)
埼玉県	2637.0 (1)	—	1334.5 (3)
栃木県	1608.0 (2)	1287.7 (3)	—

単位・万人、カッコ内は全国順位

大都市圏内（関東では東京、神奈川、埼玉、千葉）の移動は除く  
国土交通省「第5回（2010年度）全国幹線旅客純流動調査」より

隣県は、人口や企業の誘致、商業販売での顧客獲得など、時に競合相手となる。サービスの向上につながればよいが、限られたパイの奪い合いだけならば消耗戦となりかねない。発想を転換して、需要の開拓につなげるような合従連衡策を検討してみることも必要ではないか。例えば、観光イベントや企業商談会を共同開催することなどによって、北関東全体の観光客増加やビジネスマッチングの拡大に努めることも考えられる。当県の長谷寺などが札所となる日本百観音の結願寺である水潜寺や他の秩父観音を訪れたところ、多くのお遍路さんと出会った。いにしえから続く広域連携の慣わしとも言えるだろう。

隣県の優れた取り組みを吸収することも重要だ。JR高崎線の埼玉県内の駅では、地元出身の偉人を紹介する看板が目につく。深谷駅の渋沢栄一や本庄駅の塙保己一などだ。地元の誇る偉人をPRする努力に感心する。渋沢栄一は、富岡製糸場の建設に尽力したことで有名だ。

昭和19年（1944年）に日本銀行前橋支店の設立を決めた日本銀行総裁の渋沢敬三は、渋沢栄一の孫に当たる。設立理由は、第2次世界大戦下での北関東の金融孤立化を回避することだったとされる。深谷市探訪の大きなきっかけになった。

日本銀行前橋支店長  
相良 雅幸